

6/3 木曜

使用可能核弾頭 9576発

23年前年より86発増

国際平和研究発表

スウェーデンのストック

ホルム国際平和研究所(SI-PRI)は12日、世界の軍備・軍縮・国際安全保障に関する2023年の年鑑を公表しました。今年1月時点での世界の核弾頭総数は推計1万2251-2発で、前年1月より1108発減っています。しかし、使用可能な核弾頭は1176発で、前年より86発増えています。

S.I.P.R.I.のダン・スミ

ロット(10000発)と米国(5244発)両国で金体の9割を占めます。年鑑は両国の22年の核弾頭の規模を「横ばい」としながら、「2月にロシアがウクライナを侵略した」とを受けて、両国とも核実力に関する透明性が低まっている」と指摘しました。
まだ、中国は前年の2022年から410発が増えたと推計。さらに増えるものとみられるとしています。年鑑は過去1年の地球的規模の安全保障について、「引き続き悪化している」と指摘。ウクライナ戦争の影響が軍備・軍縮・国際安全保障のすべての分野に及んでいるとしています。

けて、両国とも核実力に関する透明性が低まっている」と指摘しました。

まだ、中国は前年の2022年から410発が増えたと推計。さらに増えるものとみられるとしています。

年鑑は過去1年の地球的規模の安全保障について、「引き続き悪化している」と指摘。ウクライナ戦争の影響が軍備・軍縮・国際安全保障のすべての分野に及んでいるとしています。

ス所長は「人類史上、最も危険な時代に知らず知らずに入らうとしている」と指摘。各國政府に対して「地政学上の緊張を緩和し、軍備競争を避け、環境破壊のもたらす悪影響と飢餓の拡大に対処する」よう協力を求めました。